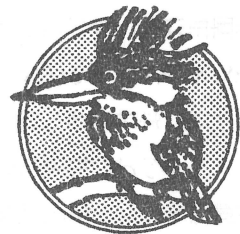
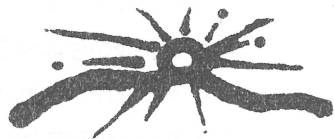


No.31

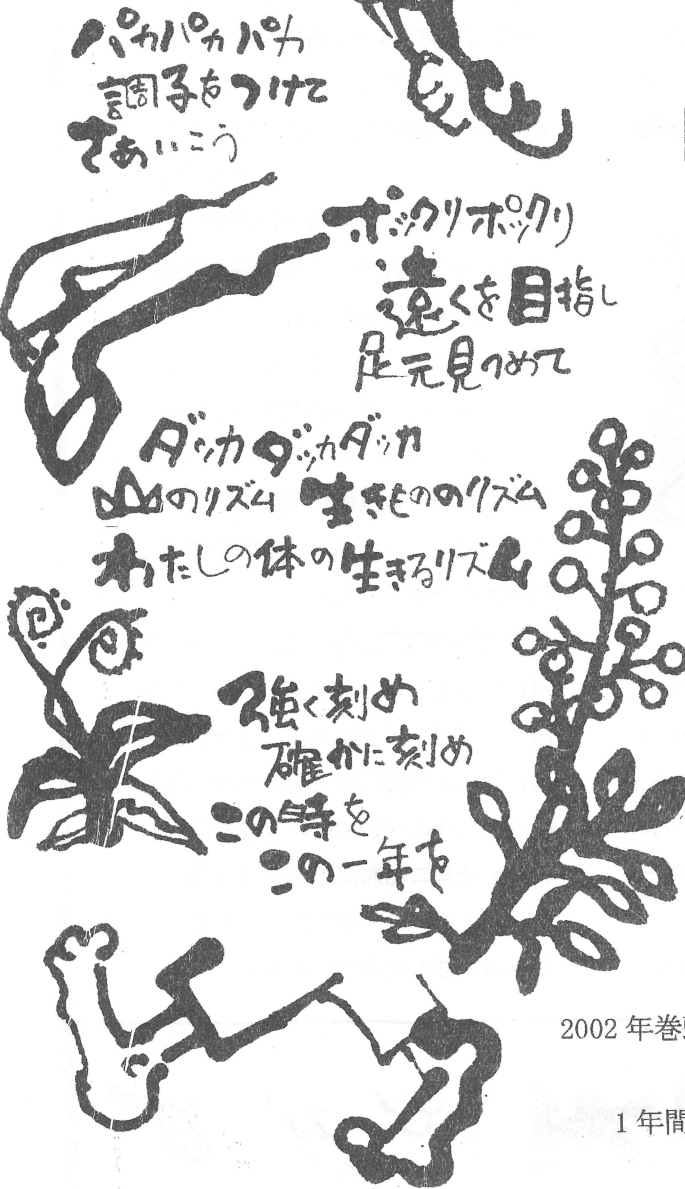


てんらんざん どうのすやま
天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

やませみ

もくじ

2002年巻頭言・2001年活動の記録
天覧山の動物たち
1年間の自然環境調査を終えて
編集室から
日よう日ふるさと散歩のお知らせ



パカパカパカ
調子をうけて
てあいう

ポクリポクリ
遠くを目指し
足元見ながら

ダカダカ
山のリズム 生きもののリズム
わたしの体の生きるリズム

強く刻め
確かに刻め
この時を
この一年を

FROM EDITORS
編集後記

北インドとネパールの釈尊誕生地ルンビニより、ブツダガヤ、サルナート、ラジギール、バイシヤリ、そして涅槃の地クシナガラまで巡り訪ねた。

この仏教と稲作発祥の大地には、今も人と動物と草と樹々が一体の大いなる生命として、実りの秋の、黄金色の稲穂の内で生きていた。見渡す限りつづく水田の大平原にガンジス河は流れ、並木道はどこまでもつづき、農村の小さな草葺の小舎で、人は牛と犬と鶏と共に、サリーの女の人は美しく、腰衣の男は逞しく、半裸の子とも達は元気に群れて、暮らしていた。秋とはいえ熱い太陽の下で、菩提樹の木陰には涼しい風も流れて気持ち良く、チャイが甘かった。

そしてやつと私も、仏様が自ら常在靈鷲山と説かれた法華経の御山で、その説法壇、庵跡に触れ、その面影を偲ぶことができた。

天竺の 仏と稲に 養われ
早瀬 成憲

日よう日ふるさと散歩

当会では、天覧山周辺の自然に親しんでいただくために毎月「ふるさと散歩」を開催しています。

◆2月17日(日)

陽だまりに咲く花を訪ねての巻

○集合 能仁寺山門前 午前9時30分

○持ち物 お弁当・飲み物

◆3月10日(日)

春の恩吹を感じようの巻

○集合 能仁寺山門前 午前9時30分

○持ち物 お弁当・飲み物

◆4月14日(日)

里山のお花見・セリ飯の巻

○集合 能仁寺山門前 午前9時30分

○持ち物 食器とお箸・飲み物

歩きやすい服装・履物など

各回とも参加費は保険料100円

共催 はんのう景観トラスト

(財) 埼玉県生態系

保護協会 能名栗支部

☆詳しくは編集局に

お問い合わせください



会員募集中!!!

1995年2月、西武鉄道による巨大地開発の計画が出されて以来「天覧山・多峯主山の自然を守る会」はこの地の自然をいつまでもという思いで、さまざまな活動を続けて参りました。どうぞあなたも会員になって活動を支えて下さい。

- 年会費
- 一般会員.....2000円
- ファミリー会員.....3000円
- 賛助会員.....10000円
- 協力会員.....無会費
- カンパ等送り先(郵便振替)
- 天覧山・多峯主山の自然を守る会
- 00580・9・16342

やませみNo.31

2002年1月1日発行
●編集・発行
天覧山・多峯主山の自然を守る会
●事務局/浅野正敏
0429-74-1691
〒357-0035
埼玉県飯能市柳町1-8-17
●編集局 電話・FAX
鈴木弘子(77) 0141
申込用紙・やませみは左記にあります。
谷口眼科・銀河堂・C&R裏



「やませみ」へのご意見をお寄せ下さい。投稿もお待ちしています。
ULR=<http://tenranzan.room.ne.jp> e-mail=tenranzan@room.ne.jp



ふるがりが 軽井沢を深めて



2002年を迎え、飯能の歴史と文化、豊かな生態系を有する天覧山・多峯主山一帯の自然は存在しています。

1995年、当地の開発が発表された時、住都公団による大河原分譲地計画では、木々は伐採され山肌があらわになっていました。その後、山々は放置されたままになっています。もしも私たちが天覧山・多峯主山一帯の保全を訴えていなかったら、大河原と同様になっていたと想像されます。オオタカはもちろん、ホタルもトンボも姿を消したかも知れません。首都圏50kmに位置する飯能市だからこそ、ますます貴重になっていく残された自然を、みすみすドブに捨てるような事がないよう、私たちは今年も活動を続けていきたいと思っています。

昨年7月に飯能市市長選挙が行われ、沢辺瀧吉氏が新市長となりました。

これを機に当会の活動及び飯能市における自然環境の保全について、沢辺市長と懇談致しました。当会では、昨年より日本自然保護協会からの助成を受けて、天覧山・多峯主山周辺の市民版環境アセスメントともなる詳しい環境調査を行っている事を伝えました。その中で、自動カメラが捕えたキツネやハクビシン等の写真や、バルーンを使った多峯主山一帯の空中写真を見て頂きました。また、埼玉県のレッドデータブックに載る希少種が新たに発見された事も話しました。沢辺市長は、前埼玉県議であったことから、県によって実施された天覧山・多峯主山周辺（飯能県民休養地構想計画地）の環境調査について承知しておられました。当会によるさらに深く踏み込んだ調査内容に関心を示されました。天覧山・多峯主山周辺地域の県民休養地としての計画推進はすぐには進まない

との事でしたが、実施の際には遊園地的なものではなく、自然を残す形のものが良いと考えているとの事でした。また市長は、公約として市民環境会議の設置を掲げていらっしゃいます。これに対し当会では、これまで行ってきた環境調査や休耕田の活用保全、環境講座による学習等を踏まえて提案・実践を考えている事から、市民環境会議の開催に期待するとともに、その一員として協力したい旨を伝えました。今後当会は、これまでの活動を地道に続けてゆくとともに、市民環境会議に繋がるような自然環境保全に関心のある方々とのネットワークを広げてゆきたいと考えています。

天覧山・多峯主山の自然を守る会
代表 浅野正敏

2001年活動の記録

- 1月1日◇ふるさと散歩「初日の出、山歩きの巻」
- 2月11日◇ふるさと散歩「道なき森に足を踏み入れる喜びの巻」
- 3月11日◇ふるさと散歩「自然の恵みセリご飯の巻」
◇市議会議員立候補予定者への公開質問状とその回答「やませみ」にて発表
25日◇第5回奥むさし環境講座「里山を考える」
- 4月1日◇荻番市フリーマーケット出店
8日◇ふるさと散歩「春の里山、お花見ツアーの巻」
15日◇総会
- 5月13日◇ふるさと散歩「里山生き物調査隊」
- 6月3日◇ほとけどじょうの里 田植えまつり
10日◇ふるさと散歩「里山生き物調査隊」
30日と7月7日◇ふるさと散歩「ホ・ホ・ホタル来いの巻」
- 7月15日◇飯能市長立候補予定者への公開質問状とその回答「やませみ号外」にて発表
- 8月12日◇ふるさと散歩「川は流れてどこどこ行くの巻」
- 9月10日◇ふるさと散歩「秋咲く花と出会える日の巻」
- 10月13日◇ほとけどじょうの里 稲刈り
27日◇ふるさと散歩「月夜の晩に歩こうかの巻」
28日◇第6回奥むさし環境講座「エコロジーはエコノミー」
- 11月11日◇ふるさと散歩「秋の味覚を味わおうの巻」
- 12月8日◇日本自然保護協会の助成による事業の発表会
9日◇ふるさと散歩「木の実を拾ってリースを作ろうの巻」
その他に、会報「やませみ」27・28・29・30号、会員通信15・16・17・18号発行
◇丸広前、市役所前等で「やませみ」の街頭配布及び個別配布
◇毎月2回の定例会の他、調査委員会会議、県民休養地推進委員会会議、編集会議及び印刷や発送作業を行っている
◇天覧山・多峯主山一帯の自然環境専門別調査の実施（日本自然保護協会の助成を受け、昨年10月より本格的に調査）
◇東やつ田（ほとけどじょうの里）の保全作業は随時行っている





天覧山の動物たち

「えー？タヌキとかキツネなんて学校のまわりにいるわけ？」

高校生の生物の授業で自動カメラに写った動物たちを紹介すると、必ずそんな声をもらす生徒に出会う。ここは彼らにとって毎日通って来ている土地だが、そこに様々なケモノが生息していることに気付く機会はほとんど無い。

十数年前から飯能市にある私立学校で生物の教員をしているのだが、私も初めは彼らと同じ感覚だったのだと思う。里山の中にあるこの土地にどんな生物がいるのだろうか。それを見てみたい。そんな思いから、山の中に自動カメラなる自動撮影装置を仕掛けながら動物の姿を追ってきた。いままでに写った動物たちの姿から飯能の自然をのぞいてみたい。

現在私が自動カメラを設置しているのは、飯能市街からほんの数キロほど離れた小さな谷ぞいの林道跡だ。近くには車道も通るし人家もある。それでも定点観測していれば飯能の動物相のあらましをかいま見ることが出来る。

例えば、昨年7月から今年の9月までの約1年間に自動カメラに写った哺乳類は以下のようになっている(か

つこの中は撮影枚数。一回に複数枚写ったものも含む)。

モグラ？(1)、ノウサギ(2)、アカネズミ(19)、アライグマ(1)、キツネ(1)、タヌキ(16)、テン(2)、イタチ(1)、アナグマ(8)、ハクビシン(10)、イノシシ(3)、カモシカ(1)



タヌキ

こうしてみると、飯能は隔離された山奥の村ではないが、逆に人里に近い里山環境だからこそその多様性を見ることが出来る。一方で動物相も時代とともに変化している。

お隣の名栗村まで行かないと見られないと思っていたカモシカがフィルムに写っていたときは正直言ってびっくりした。十数年でカモシカが写ったのは2回だけなので、生息しているとは

言えないだろうが、それにしてもよくここまで出て来たものだ。

イノシシはここ数年目につくようになってきているようだ。イノシシが出没しているかどうかは、湿地(田んぼ、休耕田や道沿いの水たまりなど)に、鼻先を突っ込んで掘り起こしたり寝ころんだような跡、ひづめのある足跡が目立つのでわかるものだ。私自身は先日山の中で母子のイノシシに初めて出会ったのだが、飯能在住の同僚に聞いた話では、住宅地の中にある公園の砂場で夜な夜なイノシシが砂浴びをしているのだと言う。

とはいえ、かつてはもつとよく見たという話も聞く。同じく地元出身の同僚からは、彼が幼い頃、小学校のグラウンドにイノシシが出てきたという話を聞いた。

タヌキは里山の代表のようなケモノだ。通勤途中に車にひかれた死体をこらんになった方も多いのではないだろうか。飯能のタヌキは10年ほど前から明らかに減少した。これは当時流行しはじめたタヌキの皮膚病のためと考えられるが、それも一段落し、このところ少し復活してきたような印象を持つ。

っている。

かわって目立つようになってきたのが、ハクビシン。車にひかれて持ち込まれる死体(私が標本として集めているのを知って、同僚や生徒がよく拾ってきてくれる)の種類も、かつて多かったタヌキからこのハクビシンに変わってきている。

知人から数年前、青梅で野生化したアライグマが出没していると聞かされていたのだが、今年の春、アライグマは私の自動カメラの前にはじめてその姿を見せた。今後この北米産の帰化動物であるアライグマがどうなっていくのか気になっている。

これら動物相の移り変わりは、おそらくそこに暮らす人間の活動の影響をも反映しているのだろう。里山という自然環境に私たちがどんな関わりをしていくのかが問われているように思うのだ。

安田 守(自由の森学園中・高校教師)

一年間の自然環境調査も終えて



最後に、調査ならびに報告書の作成に当たり、各分野の先生方、守る会会員の皆様のご理解と多大なご協力を得られたこと、また、日本自然保護協会のプロ・ナトゥーラファンド活動助成を受けられたことに、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

調査委員会 遠藤夏緒

約一年間にわたり実施してきた、天覧山・多峯主山周辺域での自然環境調査も無事終え、昨年末には報告書も完成することが出来た。

天覧山・多峯主山の美しく素晴らしい自然を、開発の影響を最小限に抑え保全していくためには『守ろう』とする自然がいったいどういう自然で、客観的にどう評価されるのかといった、自然についての情報を市民が手にすることも必要なのではないか？ そんな思いから始めた今回の調査であった。

この一年間の調査の結果、周囲を宅地開発や道路・鉄道などで囲まれ、まるで『緑の孤島』のようになってしまうこの山一帯が、数多くの野生動物植物にとつて、とても大切な生息・生育の場であることが明らかになった。調査結果の詳細は調査報告書に譲るが、生態系の基礎となる植物の全出現種数は、実に121科723種類にも及んだ。また、動植物ともに数多くの希少種が確認され、周囲を住宅地などで取り囲まれた里山としては、この生物多様性の高さは特筆すべきもの

があるといえる。とりわけ大規模な団地開発計画が予定されている地域は、天覧山入りという谷の集水域である。その下流域には湿地という全国的にも数少なく残っている環境に依存する多くの貴重な植物が生息している他、ホタルをはじめとする、水辺に生息する生き物が多数確認されている。

このような場所における団地開発・道路建設などの開発行為は、この地域が既に自然の連続性において他の地域と分断されている今、とり返しのつかないダメージを生態系に与えることとなる。必要性が問題視されているこれらの開発行為によって自然を破壊する方向と、多様性の高い貴重な動植物相を地域の自然遺産として次世代に受け継がせる方向と、どちらが賢明な方策か考えるまでもないであらう。

今後、調査によって明らかになった天覧山・多峯主山の自然の現状を、一人でも多くの市民、関係者の方々にお伝えし、天覧山・多峯主山周辺の将来について共に考え、保全に取り組んでいきたい。

調査各分野の延日数と延参加者数

1. 植物調査	全種調査	延日数	19日	延参加者数	101人
	希少種調査	"	13日	"	35人
	植生調査	"	8日	"	24人
2. 哺乳類調査	2000年8月9日カヤネズミの巣、哺乳類の巣の確認。参加者4人。				
	2000年12月2日ムササビの観察会。参加者10人。				
	その他のフィールドサイン等の確認については、他分野の調査時に記録した。また、定点設置自動カメラによる調査も行った。				
3. 鳥類調査	ルートセンサス	延日数	12日	延参加者数	75人
	猛禽類生息調査	"	26日	"	29人
4. 爬虫類・両生類調査	"	"	10日	"	26人
5. 水質・水生生物調査	"	"	14日	"	43人
6. トンボ調査	"	"	8日	"	19人
7. 蝶調査	"	"	4日	"	20人
	他の調査時にも記録を取った。				
8. 蜘蛛調査	2000年8月29日に、夜間観察会実施。参加者10人。				